

スタジアム イベント研究会

2016年2月 イベント学会



STADIUM EVENT STUDY GROUP

2015年8月28日、「アスリート第一」、「世界最高のユニバーサルデザイン」、「周辺環境等との調和や日本らしさ」を基本理念とする「新国立競技場の整備計画」が公表され、‘20年オリンピック・パラリンピック（以下、東京オリパラ）のメイン会場となる新国立競技場の施設整備が再スタートしました。整備期間を短縮するため設計・施工を一貫して行う公募型プロポーザルが実施され、新国立競技場整備事業大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体が優先交渉権を獲得。同時に、大会後の利用について「スタジアムを核として、周辺地域の整備と調和のとれた民間事業への移行を図り、今後、政府において計画を踏まえて、ビジネスプランの公募に向けた検討を早急に開始する」ことが決定されました。次なる課題は、1520億円という予算内での建設と大会終了後の施設経営となります。

新国立競技場の整備をめぐっては、‘14年の解体工事の差し止めに端を発し、‘15年7月17日に安倍晋三首相が2520億円の最終案を白紙撤回するなど、国民の大きな関心事となりました。こうしたなか、イベント学会（会長・堺屋太一）では、東京オリパラとポスト東京オリパラを踏まえ、新国立競技場をはじめとする大型スタジアムのあるべき事業プランを研究し、政策提言を行うため、‘15年6月に「スタジアムイベント研究会」を発足しました。イベント学の視点から新国立競技場を含む大型スポーツスタジアムの整備と活用のあり方について、主に3つの観点から議論を行っています。

本研究会では、イベント学会の中に設立された学術研究グループとして、公益性、公平性、透明性を基本姿勢としながら、空理空論に終始せず、持続可能なスタジアムイベントの研究・提言を推進しています。オリンピック憲章、オリンピックアジェンダ2020、スポーツ庁設置理念などに示されたスポーツ文化のあり方、スポーツが社会の中で果たすべき役割を踏まえ、東京オリパラが持続可能で多様なスポーツ・コミュニティ形成の契機となることを目指す研究会の提言が、多くの関係者の皆様に届くことを祈念しております。



スタジアムイベント研究会座長 イベント学会理事

萩 裕美子（はぎ ゆみこ）

東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程保健体育科卒業。鹿屋体育大学講師、助教授、教授を経て東海大学体育学部教授、現在に至る。日本生涯スポーツ学会会員（理事、学会誌編集委員）、日本スポーツ栄養学会会員（監事、評議員）、文科省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する検討会」委員、東京体育学会理事、イベント学会理事、ほか多数。保健学博士（保博乙第4号）。

本研究会は、以下の課題認識のもとにスタジアムイベントの研究を行っています。

1 新国立競技場の活用方策に関する検討の遅れ

東京オリパラの主会場、新国立競技場は、紆余曲折の末、デザインビルド方式での整備が推進されることとなりました。「アスリート第一」の理念のもと、2020年に間に合わせるための工期、コストの削減に向けた努力が行われる一方で、2020年以降のスタジアムの管理、活用に関しては、民間事業者への移行という方針はでているものの、その具体的な内容に関する議論が後回しになっているのが現状です。東京オリパラ以降にも新国立競技場が有効に活用されるためには、ソフトからのスタジアム活用方策の検討(ソフト・ドリブン)が不可欠なものと考えます。

2 スタジアム利活用方法の硬直化と収益力の弱さ

そもそも新国立競技場を含む日本の公共スタジアムでは、スポーツ競技大会以外での施設の利活用方法が極めて限定されてきました。大型コンサートやパブリックビューイングなどの実施例はあるものの、こうした利活用は一部大都市の大型スタジアムに限定されたものとなっており、施設稼働率は極めて低い状況となっています。またそのことの影響もあり、日本の多くの大型公共スタジアムは施設収益が低い状況にあり、これまでスタジアム運営の主流となってきた指定管理者制度の見直しも含め、より持続可能なスタジアム運営の手法を検討していくことの必要性が強く指摘されはじめています。

3 全国のスタジアムの老朽化

スタジアムの運営管理に関する課題は、新国立競技場に限られた課題ではありません。日本では、少子高齢化とそれとともに経済の縮小が懸念されるなか、戦後に全国国民体育大会などにあわせて整備されてきた大型の公共スタジアムが次々に改修、補修のタイミングを迎えることとなります。こうした地方のスタジアムでは、都市計画や市民生活との乖離など、より多くの課題を抱えてもいます。新国立競技場の整備を契機として、公共スタジアムの持続可能な整備、そして運営管理の手法確立に向け、より実践的な研究を推進していく必要があります。

研究の目的

イベントロジー(イベント学)の立場から、 これからのスタジアムの整備や管理運営の あり方を提言する。

上記課題を踏まえ、イベント学会では「スタジアムイベント研究会」を設立しました。イベント研究に携わってきた研究者と豊富なイベント経験を持つ実務者の叡智を結集し、新国立競技場はもちろんのこと、全国のスタジアムで応用可能な、スタジアムの整備と管理運営のあり方を研究し、政策提言を行います。

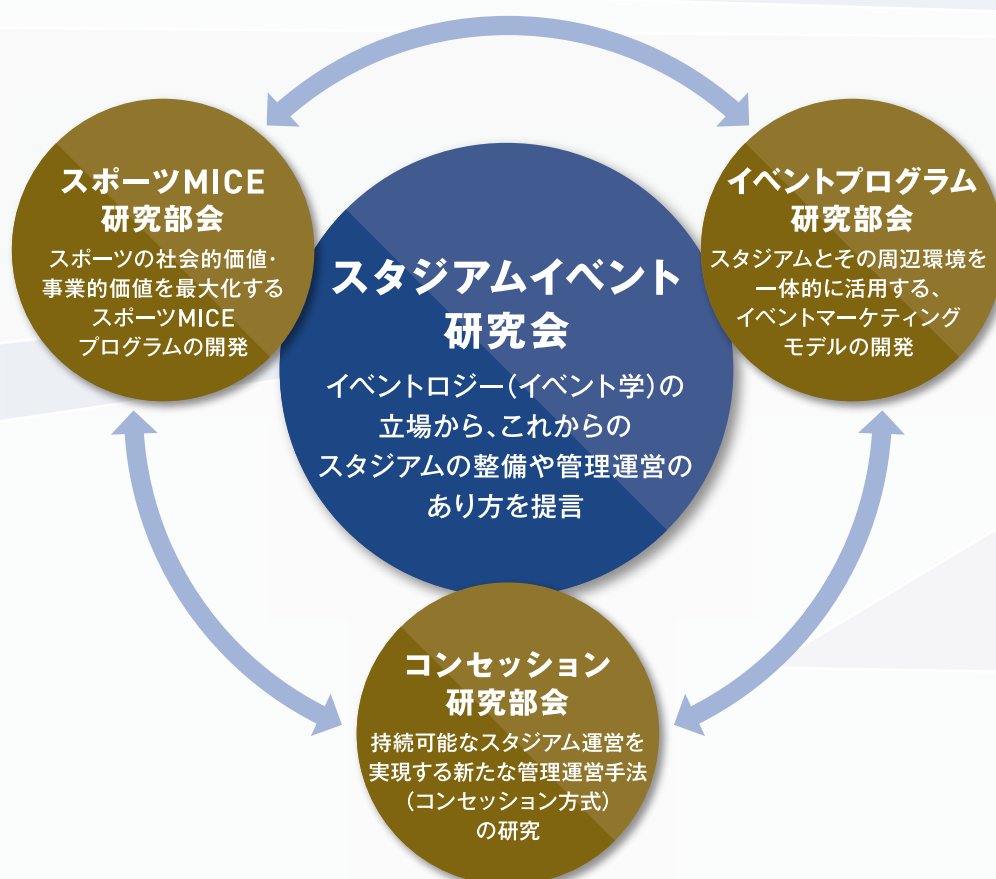
これからのスタジアムは

「市民ひとりひとりの幸福社会実現の舞台」

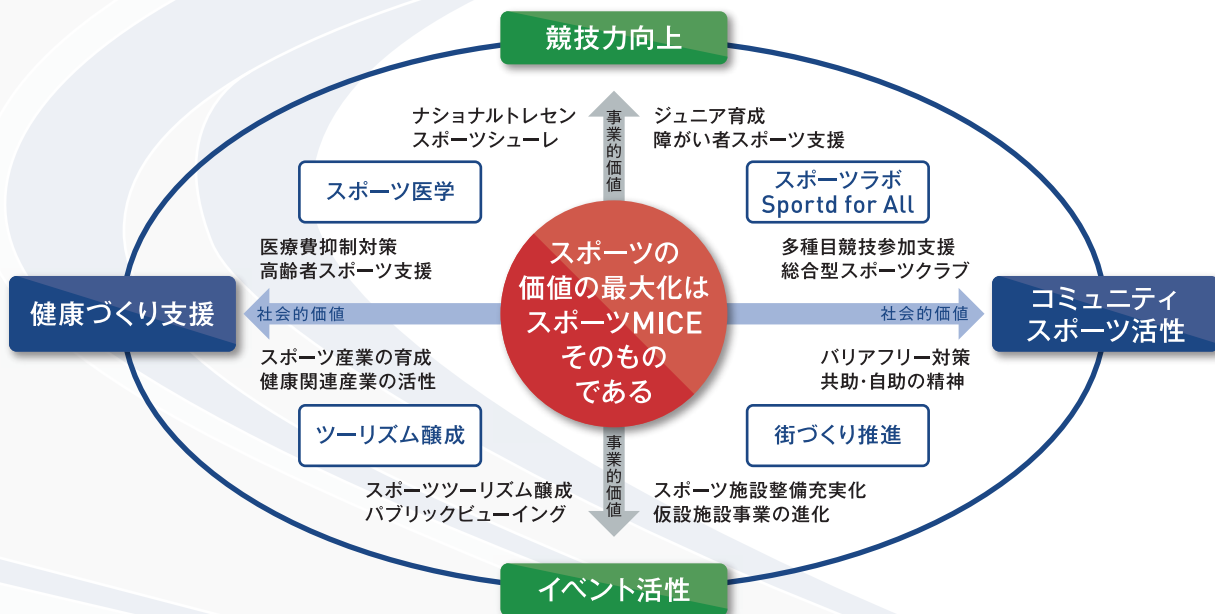
IOC(国際オリンピック協会)が制定した「オリンピック憲章」は、スポーツをすることを基本的な人権のひとつと位置付けており、これからのオリピックムーブメントのあり方を示す「オリンピック・アジェンダ2020」では、透明性や持続可能性の確保とともに、社会との対話を積極的に推進することが謳われています。また2015年10月に設置されたスポーツ庁は「スポーツを通じて「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む」ことができる」ことを創設の理念としており、東京オリパラでは「市民の間でスポーツをより身近なものにして、健康的なライフスタイルを促進させる」ことを重要なレガシーと位置付けました。

私たちは、これからのスタジアムは、アスリートのための競技スポーツの場であるとともに、多様な市民に開かれた公共の場であるべきだと考えます。超高齢社会の到来により重要性が飛躍的に増す健康延伸、医療費の削減のためにも、また成熟社会におけるクオリティ・オブ・ライフの実質的な向上のためにも、これからのスタジアムはより多くの市民がスポーツに触れ、スポーツ・コミュニティに参加できる場・舞台の象徴でなくてはなりません。

スタジアムイベント研究会は、こうした考えに基づき、新国立競技場および全国の大型公共スタジアムに敷衍可能な、以下の研究を推進していきます。



新国立競技場をスポーツMICEの殿堂へ



研究のねらいとテーマ

国際スポーツの先進地域では、スポーツが本来有する「触れる」「啓発される」「参加する」「体験する」「楽しむ」「持続する」機会と場を広げるために、会議・見本市・展示会・ラーニングプログラム・ツーリズム等、「スポーツMICE」と呼べる幅広い交流事業を展開しています。スポーツMICEの広がりや深まりの舞台として、全国の大型競技施設の活性化を展望しながら、まずは、「新国立競技場」の豊かな可能性を検証し、「新国立競技場をスポーツMICEの殿堂」とする為の提言を発表しています。

研究の内容

① スポーツ MICE の事業的価値・社会的価値の検証

スタジアムの利活用「スポーツMICE」を導入することでどのような社会的価値、事業的価値が生まれるのか、国内外の先進事例も踏まえながら検証しています。特に「スポーツ」のMICEコンプレックス型事業構造の発展と拡大を明らかにします。

② 新国立競技場におけるスポーツ MICE の実践モデル研究

新国立競技場と神宮外苑で実現可能なスポーツMICE事業の実践モデルとして、以下3つのプログラムの事業イメージや事業化手法を研究します。

スポーツラボ	IOC総会が決議した「オリンピックアジェンダ2020」で提唱されているスポーツ入門プログラム
東京スポーツウィーク	新国立競技場と神宮外苑を舞台に、企業展示会、体験イベントなどを複合的に展開する新たなコンベンション事業(東京デザインウィークなどを参考に)
世界レジャー会議・ゲームス・見本市	世界レジャー機構が2年に一度開催する「世界レジャー会議」の2022年日本誘致と日本開催モデルの検証とその波及効果の検討

③ スポーツ MICE のための仮設力活用モデルの研究

日本が誇る仮設技術をスポーツMICEに活用するための実践研究。ローコスト、マルチユースを実現する仮設建築技術のほか、イベント対応のためのインフラ整備のあり方、ICT活用などについて検証します。



部会長紹介 福井 昌平 イベント学会理事

CI戦略プランナー。1946年鳥取県生まれ。電気通信大学応用電子工学科中退。
(株)コミュニケーション・デザイン研究所代表。長野冬季オリンピック招致／企画書作成業務。2002年ワールドカップ招致特別アドバイザー。2005年愛知万博チーフプロデューサー。2010年平城遷都1300年記念事業チーフプロデューサー。2012年麗水国際博日本館総合アドバイザー。2015年ミラノ万博日本館総合プロデューサー。

神宮外苑スタジアムパークイベント構想

新国立競技場+神宮外苑+周辺街区が連携した都市イベント構想
みんなで支え、季節のめぐりを楽しむ「新・年中行事」のモデル提案

時期	コンセプト 季節を楽しむ 新・年中行事	新国立競技場(拠点) レジェンドを基盤に 規模と立地をいかして	神宮外苑(周囲) 現在のイベントを 引き継いで拡充	街区(近隣) お店や施設、商店街、 企業、市民も参加して
3月	神宮の自然を満喫する 春の自然の祭典	ガーデニングとペットEXPO、 花の展示販売会、 市民参加競技場花のディスプレイ	外苑のお花見、外苑自然観察会、 鉢植陶芸教室、ドッグラン	自然観察街歩き・花の店頭販売、 植物アクセサリ販売、 オーガニックパーティ
5月	世界のトップを集めて 新たな都市型 スポーツフェス	BMXバイク国際大会・展示会、 展示試乗会、 関連エキジビション	スポーツグッズ販売、 ストリートスポーツ大会・体験教室、 ロードバイクレース	スポーツファッションセールス、 コレクションギャラリー、 スポーツパーティ、ウォーキング大会
8月	東京の夏の夜を楽しむ 神宮夏の音楽祭	花火大会、7万人コンサート、 スペクタクルショー	ストリート音楽大道芸 マーチングバンド全国大会パレード	ライブ演奏、楽器販売、 音楽ギャラリー展示
10月	家族で参加して楽しむ 秋のアート&スポーツまつり	ファミリー健康スポーツ大会・練習会、 高齢者スポーツ教室、 アート教室&発表会	アート&スポーツの展示会、 ハロウィン仮装大会、 ウォーキング大会	アートギャラリー、クリエイティブ作品 発表会、アクセサリアート教室、 ハロウィンパーティ
12月	いちよう祭りや年末ならではの ファッションフェア	ファッションショー、 スペクタクルサーカス	ファッションバーゲン、 ストリートファッションショー	ファッションショップ、 ファッションショー

研究のねらいとテーマ

大型スタジアムは単なるスポーツ競技場ではありません。多くの人が集い遊びを分かち多彩なイベントの広場であり、都市における重要なコミュニティ拠点です。当研究では、これからの都市観光の資産、都市創造の力となるスタジアムイベントのありかたを新国立競技場と神宮外苑をモデルに提案します。

研究の内容

① スタジアムイベントの事例検証

様々なスポーツイベント、コンサートや展示会・見本市など、大型スタジアムではどのようなイベントが展開されてきたのか、その状況を内外の事例から概括します。

② 「スタジアムパーク」と「スタジアムパークイベント」

大型スタジアムを周囲の公園、さらには街区と一体化してとらえることで、その大きな可能性が見えてきます。当研究では、競技場・周囲の公園と街区を「スタジアムパーク」、そこを舞台に展開するイベントを「スタジアムパークイベント」と名付け、21世における新たな都市イベントの意義、ありかたを提案します。

③ 神宮外苑スタジアムパーク構想

新国立競技場と神宮外苑、さらに周囲の街区も含む「神宮外苑スタジアムパーク」のイベント実施モデルを研究します。

- 「神宮外苑スタジアムパーク」におけるイベントの年間プログラム、そして2020年へのカウントダウンイベントをモデルプラン(構想案)として考察します。(上記の表は年間プログラムの例示です)
- スタジアム、行政、関連組織、周囲の街区、市民 組織などをネットワークしたスタジアムパークイベントの自主制作組織の考察を行います。
- スタジアムパークイベントのコンセプトから、大型スタジアムの機能や設備について考察します。



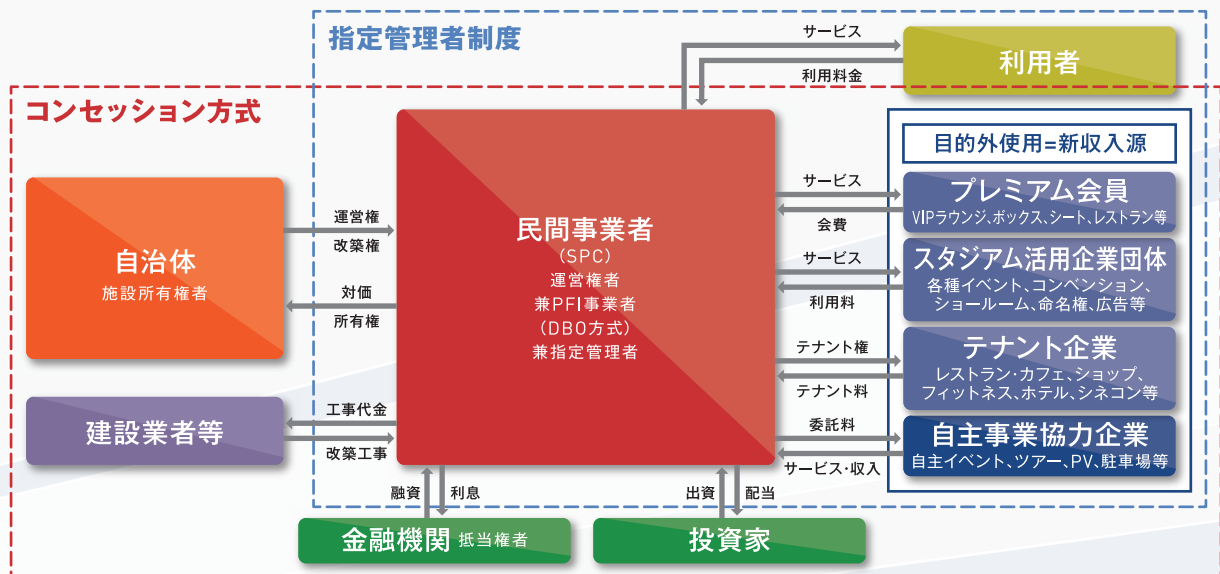
部会長紹介 橋爪 紳也 イベント学会副会長

1960年大阪生まれ。京都大学工学部建築学科卒。大阪大学大学院博士課程修了。

建築史・都市文化論専攻。工学博士。都市観光や建築に関する著作は数十冊。

現在、大阪府立大学21世紀科学研究機構教授、大阪府立大学観光産業戦略研究所長、大阪市立大学都市研究プラザ特任教授、国際日本文化研究センター客員教授、観光学術学会評議員、大阪府市文化振興会議会長、一般社団法人日本ディスプレイ業連合会理事などを兼職。

稼げるスタジアム



公共スタジアムのコンセッション方法の事業構図イメージ

研究のねらいとテーマ

わが国の公共スタジアムは今後待ったなしの更新期を迎えます。公設民営(指定管理者制度)方式で整備運営してきたわが国の公共スタジアムには最早限界が見え始めており、新たなPPP手法であるコンセッション方式に期待が集まっています。民間が参入することにより公共スポーツ施設として持続性を確保するためには、スタジアム事業の収益性が最大の課題です。したがって本研部会は「稼げるスタジアム」をテーマに、公共スタジアムの新たなマネジメントのあり方の研究を進めています。

研究の内容

① わが国の公共スタジアムの現状と問題点

最初に、わが国の大型公共スタジアムの老朽化や稼働率や収益状況の悪さ、立地条件等の現状と今後の問題点を明らかにします。

② 公共スタジアムにおける収益事業の可能性

スポーツイベントへの貸出し収入が大部分であるわが国のスタジアムに対して、多機能・多目的型の先進スタジアムの収入事業とはどう違うのか、屋根の有無、天然芝と人工芝ではどう違うのか等の分析を通じて、今後わが国のスタジアムの収益事業の可能性と自主事業の必要性を明らかにします。

③ 整備運営手法の現状とコンセッション方式の可能性

自治体が所有し、その約9割が指定管理者制度で運営されている公共スタジアムが、今後民間の参入を前提に改修・運営するために、上の図に示すような指定管理者制度と整合し、大胆な目的外使用の活用による新事業の運営権を容認するようなコンセッション方式の可能性を検討します。

④ 新国立競技場におけるコンセッション方式導入の提案

新国立競技場については、大会後の民間移行後に屋根付き、人工芝の多機能・多目的施設として改築されることを前提に、上の図に準ずる新たなコンセッション方式の導入を提案します。



部会長紹介 小松 史郎

1946年山形県生まれ。1972年上智大学大学院経済学専攻修了。1972年株式会社三菱総合研究所入社。集客文化環境部長を経て、2009年退社。同年東京都市大学都市生活学部教授に就任。2013年同学部退任後、同学部非常勤講師就任。同年集客都市研究所代表に就任。専門は、集客都市論、集客事業計画、都市観光計画、地域活性化計画。2009～2010年成田カジノ構想有識者会議座長、2012年～2015年東京都多摩ビジョン連携推進会議経済産業観光部会長。

研究会への参加をお待ちしております。

会員の種類

個人会員

準会員

自治体会員

法人会員

研究助成パートナー

入会手続きについて

会員種別の入会申込書に必要事項をご記入の上、スタジアムイベント研究会事務室にお申込みください。役員会での入会審査を経たのち入会承認書と会費の請求書をお送りします。イベント学会の非会員の場合は、別途イベント学会への入会手続が必要です。詳しくはスタジアムイベント研究会事務室までお問い合わせください。

研究員 31名

※順不同、敬称・法人格・役職名省略

伊勢谷 宣仁(オペラ季節館)

稲垣 勝啓(プランニングフィールド)

岩崎 博(エスシー・プランニング・オフィス)

太田 正治(スポーツイベント研究所)

大根田 利夫(ダーツ)

奥野 圭(オリエンタルランド)

梶原 貞幸(淑徳大学)

菅野 秀之(コンベンションリンケージ)

清宮 浩一(清宮地域総合計画室)

工藤 康宏(順天堂大学)

公田明(みずほ総合研究所)

小松 史郎(集客都市研究所)

佐藤 政廣(関東化染工業所)

澤内 隆(港区観光協会)

澤崎 宏(工学院大学)

澤田 裕二(SD)

上代 圭子(東京国際大学)

永井 利幸(ティップネス)

野川 春夫(順天堂大学)

萩 裕美子(東海大学)

橋爪 紳也(大阪府立大学)

濱口 博行(広島経済大学)

福井 昌平(コミュニケーション・デザイン研究所)

牧村 真史(集客創造研究所)

政次 哲夫(トーマス)

増田 豊仁(プランニングオフィスキュー)

松田 友治(セントラルスポーツ)

松本 真一(生涯スポーツ社会創成研究所)

宮木 宗治(東洋大学)

守屋 慎一郎(ワコールアートセンター)

師岡 文男(上智大学)

(2016年2月現在)

お問い合わせ先

イベント学会 スタジアムイベント研究会 事務室

〒105-0013 東京都港区浜松町1-21-4 崇城大学会館2階

TEL 03-3459-8356 FAX 03-3459-8354

事務室長 小林 政則(イベント学会理事)

(連絡先)携帯電話 090-6790-7152 Eメール masanori.kobayashi@eventology.org

スタジアムイベント研究会にご参加ください

■ 会員の種類

個人会員	イベント学会の会員で本研究会の研究員として活動する個人
準会員	イベント学会の会員で本研究会の研究員として活動する学生、大学院生
自治体会員	イベント学会の会員で本研究会の研究員として活動する地方自治体
法人会員	イベント学会の会員で本研究会の研究員として活動する法人

■ テーマ分科会「研究助成パートナー」制度

研究助成金のご提供により各分科会の研究活動をご支援いただく「研究助成パートナー」を募集しております。イベント学会の非会員でも助成金1口（10万円）につき1分科会に1名のオブザーバーを参加登録することができます。

■ スタジアムイベント研究会の会費

	会 費	イベント学会 既会員	イベント学会 非会員
個人会員	イベント学会入会金	—	5,000円
	イベント学会年会費	—	10,000円
	スタジアムイベント研究会年会費	10,000円	10,000円
準会員	イベント学会年会費	—	2,000円
	スタジアムイベント研究会年会費	3,000円	3,000円
自治体会員	イベント学会入会金	—	20,000円
	イベント学会年会費	—	50,000円
	スタジアムイベント研究会年会費	50,000円	50,000円
法人会員 加入口数1口につき 1分科会に1名の研 究員を参加登録で きます	イベント学会入会金	—	1口 100,000円
	イベント学会年会費	—	1口 100,000円
	スタジアムイベント研究会年会費	1口 100,000円	1口 100,000円
研究助成パートナー 加入口数1口につき1分科会に1名のオブザーバーを参加登録で きます			1口 100,000円

■ 入会手續について

会員種別の入会申込書に必要事項をご記入の上、スタジアムイベント研究会事務局にお申込みください。
役員会での入会審査を経たのち入会承認書と会費の請求書をお送りします。イベント学会の非会員の場合は、別途イベント学会への入会手續が必要です。詳しくはスタジアムイベント研究会事務局までお問い合わせください。

◇イベント学会 スタジアムイベント研究会 事務局 TEL 03-3459-8356 FAX 03-3459-8354

事務局長：小林 政則（イベント学会理事） e-mail: masanori.kobayashi@eventology.org